

こだいら ちよつとむかし



昔の結婚



あけましておめでとうございます。

今年度は、市制施行50周年の記念にあたり、おめでたい婚礼の話を集めました。

昔は今と違って、個人の意志よりも、家と家との結び付きが重んじられ、見合い結婚が主でした。昭和30年ごろまで行われていた古い結婚の様子を、タマおばあさんに語ってもらう形でまとめています。

ご祝儀

を改めて、結納返し。嫁方の仲人が、婿方の家に袴代を持っていくんだよ。それで、ようやく結婚の約束が整うの。
このころは婚礼のことを「祝儀」と呼んでいたね。

ご祝儀は、農作業が暇なときにやったから、秋の終わりから冬が多かったんだよ。

花嫁さんは、朝、まだ暗いうちから起きて、家で支度をすんだよ。髪を高島田に結って、角隠し(女性がかぶる頭飾り)をして、花嫁衣装は黒地の裾模様が多かったね。

花婿さんは紋付きの羽織袴を着て、仲人と親戚代表と一緒に、花嫁さんの家に嫁迎えに行くの。

嫁方の家では、ご馳走やお酒で、花婿さんたちを一通りもてなすんだよ。それから、花嫁さんと嫁方の仲人夫婦、花嫁さんの兄弟や親戚の人たちが、花婿の家に出かけるの。ご祝儀は、家でやるのが普通だったからね。近いところなら、歩いていったよ。

いていくことも珍しくなかったんだって。ご祝儀の日、大八車で嫁入り道具を持っていったね。

花嫁さんたちが婿方の家に着くと、もう夕方になってから、提灯で迎えられるの。そこで七歳ぐらいの男の子(男蝶)と女の子(女蝶)が、わらの先に火をつけた松明を左右から差し出して、仲人さんが踏み消すんだよ。火またぎといつて、花嫁さんが、それをまたいで、勝手口から家に入るの。他の人たちは、玄関や縁側から入るんだけどね。

両家の仲人が正面に、花婿方と花嫁方は向かい合って座るの。進行は相伴当と呼んで、男の人が二人でやったんだよ。

三々九度は、男蝶と女蝶がお酒を注いで、それを二人で飲み交わすの。次に、婿方の両親が杯をもらって、それから、みんなに杯が回されて式が終わるの。

それから祝宴。祝宴のことは本座敷っていったね。式るときは礼酒(冷酒)だけど、本座敷には燗酒になって、いろんなご馳走が出たんだよ。料理は仕出し屋さんに頼んだり、近所の人たちが集まって用意したり、家でやるご祝儀はとも大変だったんだよ。

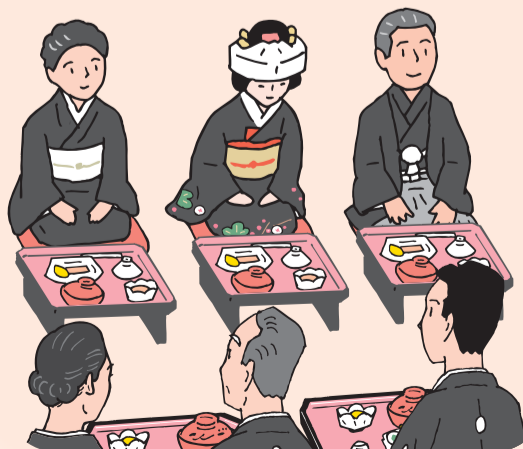
お吸い物を具を変えて、何度か出るんだよ。花嫁さんが着物を着替えて、お色直しをするたびに、料理のしめは、必ず手打ちうどんなんだよ。これは「ツルツル、カメカメ。長く続くように」という鶴と亀の縁起拍子でね。近所の人たちがのし棒とのし板持参で作ってくれるの。

祝宴のお給仕は、近所の若い娘さんに頼むんだけど、その働きぶり、縁談がまとまることも珍しくなかったんだよ。

最後は、嫁のお茶といつてね、花嫁さんが、客人の一人一人にお茶を出すの。

本座敷が終わると、後座敷といつて、近所や組合の人をもてなすんだよ。だから全部終わると、夜が明けていたなんてことも、珍しくなかったね。

ご祝儀の間は、冬でも障子を開け放してあるから、誰でも見に行けるの。子どもたちも、とっても楽しみにしていたよ。



替えて、お色直しをするたびに、お吸い物が変わるの。

お吸い物のしめは、必ず手打ちうどんなんだよ。これは「ツルツル、カメカメ。長く続くように」という鶴と亀の縁起拍子でね。近所の人たちがのし棒とのし板持参で作ってくれるの。

祝宴のお給仕は、近所の若い娘さんに頼むんだけど、その働きぶり、縁談がまとまることも珍しくなかったんだよ。

最後は、嫁のお茶といつてね、花嫁さんが、客人の一人一人にお茶を出すの。

本座敷が終わると、後座敷といつて、近所や組合の人をもてなすんだよ。だから全部終わると、夜が明けていたなんてことも、珍しくなかったね。

ご祝儀の間は、冬でも障子を開け放してあるから、誰でも見に行けるの。子どもたちも、とっても楽しみにしていたよ。

縁談

娘や息子が年頃になると、たいてい親戚や近所の世話好きな人が、見合い話を持ってきてくれたんだよ。「橋かけ」とか「口かけ」といってね。縁談のまとめ役をしてくれるんだよ。橋かけが、似たような暮らし向きのところを探してくれて、ちょうどいい相手が見つかるよ、お見合いをしたの。今と違って、本人の気持ちより、家同士のほうが大事だったんだよ。もっと前には、お見合いもなく、親や周りの人たちだけで結婚を決めることもあったんだよ。だから、本人たちは婚礼(結婚の儀式)で初めて会ったなんてことも、珍しくなかったんだって。それでもね、男の人のほうは、女の人を、こっそり見に行ったりもしただけど。

ある男の人が、そつと、結婚相手を見に行ったら、とつても美人で、大喜びしたんだって。ところが、婚礼が終わって、よくよく顔を見たら、別人だったそうだよ。姉と妹を見間違えてたつて。そんな話もあったんだよ。

好きあった者同士の結婚は、馴れ合いって呼んでね、昔は、あんな話もあつたんだよ。

まりなかつたんだよ。

仲人

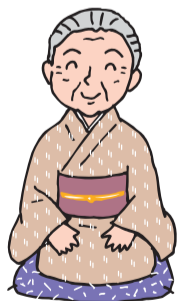
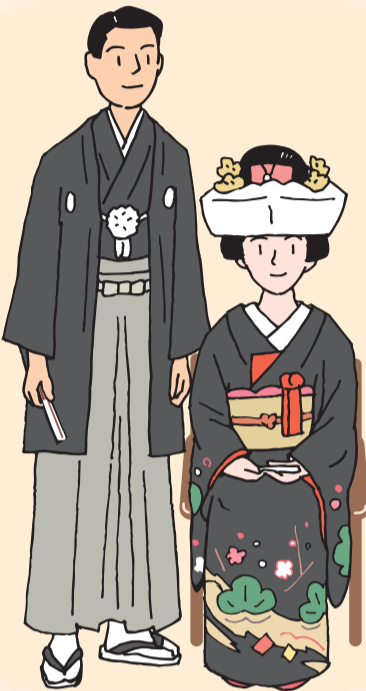
縁談がまとまると、仲人(結婚の取り持ちをする人)を頼むの。仲人は、親戚や親の知り合いなんかが多かつたんだけど、夫婦でつ

とめるの。婿方と嫁方に、それぞれ一組ずつ仲人を立てたんだよ。橋かけをした人が、そのまま仲人をすることもあつたね。

最初に、「一口酒」といってね。吉日を選んで、婿方の仲人が、婿方の親戚の人と一緒に、嫁方の家にお酒とスルメを持って行って、結婚の約束をしてくるんだよ。

それが済むと、今度は結納。

先に、婿方の仲人が、婿方の親戚代表と一緒に、嫁方の家に帯代と結納品を持っていくの。それから、日



タマおばあさんのお話は、いかがでしたか。感想をどうぞお寄せください。
協力 小平民話の会
問合せ 秘書広報課 ☎042(34)9505